

医療法人社団トモニウム
ひるま矯正歯科
Hiruma Orthodontic Office

発行:ひるま矯正歯科 発行日:2013年1月20日
〒190-0012 立川市曙町2-9-1 菊屋ビルディング2F TEL:042-526-3376/FAX:042-528-1102
URL:<http://www.hiruma.or.jp/>

患者さんインタビュー①

全部の歯で噛めていることを実感できた

◆初診の印象はどうでしたか。
——白が基調で清潔感のある医院で想像通りでした。晝間先生の説明もとてもいいねいで、僕の話も真剣に聞いてくれ誠実な印象を受けました。検査の結果、手術を受けて矯正する「外科矯正」も検討してくださいと言われ、びっくりしました。また

し、費用も何とかなるだろうと思いついて治療を決心しました。
——医院探しはインターネットで。「立川 矯正歯科」で検索したら、トップに出てきたのがひるま矯正歯科でした。ホームページの写真で見る医院の雰囲気がとても良いし、患者さんのドキュメンタリーもわかりやすく紹介されていたので、電話をして資料を送っていただきました。その資料にも治療の様子がこまかく載っていて、イメージをつかむことができたので、ひるま矯正歯科で治療することに決めました。



◆ひるま矯正歯科で治療を始めたきっかけを教えてください。
——もともと歯並びが悪い家系でしたが、社会人になってから自分でも気になっようになつて…。親元から離れて自立していました

◆手術前と同じように矯正器具を使って治療を続けました。食事の時、これまでは歯がういている感覚があったのですが、全部の歯で噛めていることを実感できるようになりました。時間をかけて治療してきたか、いがあったと思います。

◆退院後は、どんな治療を行いましたか。
——手術前と同じように矯正器具を使って治療を続けました。食事の時、これまでは歯がういている感覚があったのですが、全部の歯で噛めていることを実感できるようになりました。時間をかけて治療してきたか、いがあったと思います。

◆ひるま矯正歯科で治療してよかったですか。
——本当に良かったです。歯磨きの仕方の指導もとてもいいにしていたので、歯のケアについての意識が高まりました。
矯正治療をしている時は、装置をつけた後の痛みがすごくつらくて、ついネガティブになってしまいがちです。でも、痛いということは、それだけ歯が良い方向に動いているということ。ポジティブ思考で治療と向き合っていくことをおすすめします。



Nさんの症状について解説します

●初診時の診断:「顎変形症(下顎左側偏位) 交叉咬合、両突歯列、叢生歯列」

Nさんは上下顎歯列の前後的および水平的な位置関係にズレがあり、上顎歯列正中に対して下顎歯列正中は約6ミリ左側に偏位し左側切歯部から犬歯・小白歯にかけて反対咬合を呈していました。大白歯関係は右側が Angle class III、左側は Angle class I と非対称な咬合関係でした。矯正単独の治療方針と外科矯正の治療方針、両方のメリット・デメリットをご説明しました。本院としては長期的な安定性の観点から外科手術の方針をお勧めしました。外科手術は下顎骨を単独で行い入院期間は約2週間でした。

治療結果は小白歯の抜歯により上下顎前歯が後退した事で上下口唇の突出感および口唇閉鎖時の緊張感が改善し、下顎骨は外科手術により右側に回転および後退した事で口裂の左上がり改善しオトガイと顔貌の正中がほぼ一致しました。口腔内所見は上下顎左右の臼歯関係が Angle class I になり左右対称になりました。非対称性の改善効果は予想より大きく結果は良好でした。上下顎列の正中はほぼ一致し全体的に緊密な咬合を得る事が出来ました。



術前矯正治療終了時(動的治療開始から36ヵ月後)には、上下顎骨それぞれに対して歯がまっすぐ並び、上下顎骨のズレと同様に上下の歯列正中はずれているものの、上下顎における歯の高さは揃い咬合平面は平坦化した。抜歯スペースの閉鎖、咬合平面の平坦化により外科手術が可能となったので手術を行った。